

# 琉球大学学術リポジトリ

月夜の恋：創作舞踊のための：

『結～想い橋架けて～』 2011年8月山内昌也作詞・  
作曲

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部音楽科 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山内, 昌也, Yamauchi, Masaya メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/33212">http://hdl.handle.net/20.500.12000/33212</a>

# 月夜の恋 — 創作舞踊のための —

『結～想い橋架けて～』

2011年8月 山内昌也作詞・作曲

山内昌也

## はじめに

2011年3月11日(金)14時46分、宮城県沖を震源地としたマグニチュード9.0の巨大地震が東北地方及び関東地方を襲った。その後、予測を遥かに超えた大津波が押し寄せる。大津波警報、注意報は日本全国に及んだ。この地震、津波により1万5千人余の犠牲者と4千人余の行方不明者を出した、戦後最悪の深刻な天災となった。

この作品は、沖縄県と沖縄県観光コンベンションビューローが主催となり、2011年8月1日から5日にかけて、宮城県ボランティアスタディーツアー及び慰問公演へ参加した際に作詞・作曲・演奏したものである。

震災から4年が経ち、未だに復興の見通しが立たない状況で、風化させてはいけないうえにも“音楽からの復興支援”として、作品を記録にすることとした。

## 上演にあたり

沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻、沖芸大琉球芸能専攻OB会、沖縄尚学高等学校、沖縄県南風原高等学校より琉球芸能に携わる学生及び生徒を約60名選抜編成した。現地では慰問公演の他にボランティア活動を行うスケジュールとなっていた。慰問公演の公演名、演目は下記の通りである。

公演名：『結～想い橋架けて～』

第1部 祈「世果報一ゆがふ」

琉球舞踊 古典老人踊「かぎやで風」

琉球舞踊 古典女踊「瓦屋」

琉球舞踊 古典二歳踊「上り口説」

第2部 勢「嘉利吉一かりゆし」

演舞 エイサー

演舞 空手  
演舞 獅子舞  
組踊抜粋舞踊 「波平大主道行口説」

第3部 結「島の若人一心の息吹一」

琉球舞踊「四つ竹」  
民族舞踊「ウズンビーラ」 沖縄民謡「島唄」  
舞踊メドレー「汗水節」「谷茶前」「マミドーマ」「ヤカラ」  
「月夜の恋」「黒島口説」

演目の中に、ツアー中に感じたことを創作作品(作詞・作曲・創作舞踊)として発表したいとの意見があり、筆者が作詞・作曲を担当することとなった。尚、創作舞踊タイトルを「月夜の恋」とし、構成曲(筆者作品)は公演タイトルと同じ「結～想い橋架けて～」とした。

ツアー中は毎晩参加者全員でその日に感じた事をまとめ、グループごとにプレゼンテーションを行った。テレビやラジオ、新聞では味わうことのできない現地の匂いや空気感、時間の経過について様々な意見が出された。それらの意見を集約して作詞、作曲を試みた。

### 創作にあたり

第3部 結「島の若人一心の息吹一」の舞踊メドレーに創作舞踊「月夜の恋」が挿入されることとなり、前後の演目が躍動感あふれる演舞に対し、「月夜の恋」では静かな印象を与え、人々の復興への想いを表現できるように演出することとした。

舞踊構成としては、男女打組踊である。歌詞及び意識は下記の通りである。尚、歌詞は琉歌(八・八・八・六字)形式とした。

『結～想い橋架けて～』

- 1、里と我が仲や いつまでも肝に 想い橋かけて 寄ゆる袖に  
(サトゥトウワガナカヤ イツィマディンチムニ ウムイハシカキティ ユユルスディニ)  
(意訳：あなたと私の仲は いつまでも心の中に 想う気持ちを大切に 寄り添っていたい)
- 2、肝に思染めて 忘ららぬ事に 明日の世界互に 共に願ら  
(チムニウミスミティ ワスイララングトウニ アチャヌシケタゲニ トウムニニゲラ)  
(意訳：今回の(震災)ことは強く心に受け止めて その出来事をわすれないように 悲しいことがあっても明日に向かって進んでいるその世界を 共に願おう)

作曲については、琉球古典音楽で演奏されている「瓦屋型」(カラヤー型)(ド・ミ・ファ・ソ・シ)で作曲した。ゆったりとしたテンポに乗せ、緩やかに旋律が上行、下降する。下句の「想い橋かけて」(1番)「明日の世界互に」(2番)の部分が一番の盛り上がりで、しかし大胆に演奏するのではなく、内面に秘めた思い(切ない、やるせない)を表現する手法とした。その秘めた思いを“爆発=元気・勇気・希望”にさせるべく、次演目の「黒島口説」につなげていく演出とした。

## おわりに

我々が住んでいるこの地球上に少しずつ変化が起こっている。気候・風土・価値観・政治経済・戦争などの問題を抱え、人類はこの先どこに向かっているのか、不安を感じる時がある。

しかし、それらの不安を根底から支え、次世代へと導いてくれるのが“音楽”だと信じている。音楽が人々の心を豊かにし、生きる勇気を与え、平和を求めることで、地球上における本来あるべき“結=共存”ができるのである。

地球上には様々な音楽があり、その中の一つである琉球古典音楽や沖縄の音楽も人々の生きる勇気となり、更なる発展に寄与することを願う。そして東北地方の一日でも早い復興を切に願う。

創作舞踊「月夜の恋」

結 ～ 想い橋架けて ～ 本調子

中	尺	工	六	工	尺	中	尺	工	老	老	〇	老	四	上
四	老	四	〇	合	老	四	〇	四	中	尺	工	尺	六	六
工	〇	工	六	七	〇	七	工	尺	中	〇	中	尺		
工	〇	工	尺	老	〇	四	上	四	〇	工	六			
七	〇	七	工	尺	中	〇	中	尺	工	六	七	〇		
七	〇	工	〇	工	尺	中	〇	中	尺	工	〇			
工	尺	老	〇	四	上	四	〇	四	工	中	尺			
六	工	尺	中	尺	工	老	老	〇	老	四	上	四	老	
四	〇													

一里と我仲父 二つきをも所ニ 想い橋架けて 奇ゆる袖ニ  
 二所ニ思染ぬ 忘らん事ニ 朝日、世界互ニ 共に寝る

作詞・作曲 上内 四七  
 (2011. 8. 3)